新時代に対応した高校授業改革推進事業（指導と評価研究部門）

①評価に関する資料（課題１）

高鍋高等学校 地歴科公民科

１．本研究の目的

新時代に対応した生徒の能力の育成につながる「ICT を活用した授業」および「教科横断的または探究的観点を取り入れた授業」の研究実践・授業実践の発表・協議を通して授業実践力の向上を図る。

２．本研究のテーマ

「指導」と「評価」の一体化について　～ ICT の活用を考える ～

３．本研究の流れ

研究期間：令和５年度～令和６年度（計２年間）

・昨年度は本校理科が研究指定として、上記テーマを研究実践・授業実践の発表を行ったため、評価に関しては、本校理科から引き続くかたちで実施した。

研究の方向性（令和５年度：１年目）

・昨年度の研究内容を引き続きつつ、本校地歴科公民科の実態を把握し現状分析のために、個別（地歴科公民科全職員で実施、科目または個人）での ICT 活用、「指導」と「評価」の一体化、探究的観点のある授業の研究を実施する。

・個別（科目または個人）で行った上で、「指導」と「評価」の一体化、探究的観点のある授業の成果及び課題を集約し、来年度の研究につなげることで、本校の授業実践力の向上に努める。

４．評価について

Ⅰ：校内の評価の算出方法策定

教務部を中心に評価の算出方法検討（R3 年度）

高鍋高校は３観点をそれぞれ 100 点満点で一度評価し、それを ABC に振り分ける方法で算出。

（A：100 点～80 点、B：79 点～30 点、C：29 点～0 点）

Ⅱ：本科目（地理探究）の評価の算出方法策定　（他の科目はそれぞれ算出方法策定）

ⅰ．知識・技能

(1) 定期考査等の点数の内、教科書内容に関する知識や、計算等の技能に関する部分

(2) 作業・動画視聴のレポート等の内、資料（データ）の処理や学んだ知識を用いた考察に関する部分

ⅱ．思考・判断・表現

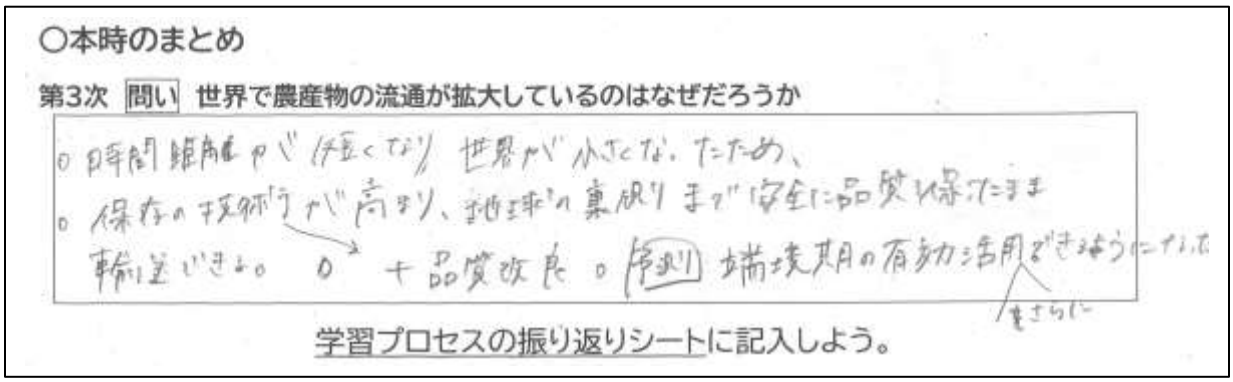
(1) 定期考査等の点数の内、思考・判断・表現に関するもの

(2) 作業等に関するレポートについて、以下のルーブリックに従い点数化したもの。ただし、それぞれの評価に該当する点数は、S:100 点、A:80 点、B:50 点、C:30 点とする。

（この SABC は 3 観点の ABC とは異なるので注意）

評価	評価の視点
S	伝わりやすい表現（文字の丁寧さ等を含む）を心掛け、設定された課題の意図（文量等を含む）を踏まえ、自分の考えが論理的にまとめられている。
A	伝わりやすい表現（文字の丁寧さ等を含む）を心掛け、設定された課題の意図（文量等を含む）を踏まえ、自分の考えをまとめようとしている。
B	設定された課題の意図（文量等を含む）を踏まえ、自分の考えをまとめようとしている。
C	自分の考えをまとめようとしている。

○生徒回答例（農林水産業）


○本時のまとめ

第3次 問い 世界で農産物の流通が拡大しているのはなぜだろうか

○時間距離が短くなり、世界が小さくなったため、
○保存の技術が高まり、地球の裏側まで安全に品質保ったまま
輸送できる。 ○ ＋品質改良 ○ 予想 端境期の有効活用ができるようになった
さらに

学習プロセスの振り返りシートに記入しよう。

ⅲ．主体的に取り組む態度

(1) 単元ごとの自己評価を行う。自己評価の観点は以下の通りとし、それぞれ 15 点満点（よくできた: 10～15 点、できた:5～9 点、できなかった:0～4 点）で採点する。

授業の内容に興味を持ち、自ら調べたり、周囲の人達と話すなどの行動をとった。
話し合いや問題の教え合いなど周囲の生徒とコミュニケーションをとれた。
授業で出された問題や、ノートの記入などしっかり行えた。
課題にしっかり取り組み期限内に提出することができた。

(2) 単元ごとに教員が評価する。学習への取り組み方や、学習を調整していくことに関して記述させ、記述の内容に関して、教員が以下のルーブリックに従って評価を行う。なお、それぞれの評価に対応した点数は、S:40 点、A: 30 点、B:20 点 C:10 点である。

評価	評価の視点
S	学習への取り組み方を意識し、工夫して学習に取り組んだことを記述している。また、自らの学習を振り返り、改善していくための方法を考えて記述している。
A	学習への取り組み方を意識し、工夫して学習に取り組んだことを記述している。また、自らの学習を振り返って記述している。
B	学習への取り組み方で意識したことを記述している。また、自らの学習を振り返って記述している。
C	学習への取り組み方で意識したことを記述している。しかし、自らの学習に関して振り返りができていない。

Ⅲ：定期考査による観点別評価を踏まえた問題作成

定期考査の問題を作成する際、問題を知識・技能の評価に関するものと、思考力・判断力・表現力の評価に関するものに分類し出題する。採点の際別々に点数を算出し、記録する。

Ⅳ：問い（課題）のルーブリック作成

課題やレポート等において、評価の観点の知識・技能、思考力・判断力・表現力に関するもので、特に文章や図による表現を含むものについてはルーブリックを作成する。作成したルーブリックに関しては、基本的に生徒に事前に示して評価の方法を理解させた上で取り組むよう指導をおこなう。

Ⅴ：評価の観点を踏まえたシラバス作成

教科書会社のデータを参考に、科目のシラバスに評価の観点を付随したものを作成。運用しながら、生徒の実態等を踏まえて随時書き換えながら進んでいくことになると思う。

「地理探究」年間指導計画にもとづく評価規準　（一部抜粋）

単元名	評　価　規　準		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	（評価の方法） ・定期テスト	（評価の方法） ・定期テスト（論述問題等） ・レポート課題 ・討論・発表 ・学習の振り返り	（評価の方法） ・レポート課題 ・討論・発表 ・学習の振り返り
農林水産業	・農林水産業の立地とその形態について地域性との関わりから把握するとともに，アグリビジネスの活動が国境を超えて産地と消費地とを結びつけていることを理解している。	・農林水産業の立地とその形態，アグリビジネスの活動を通した国境を超えた産地と消費地との結びつきについて多面的・多角的に考察している。	・農林水産業の立地とその形態，アグリビジネスの活動を通した国境を超えた産地と消費地との結びつきについて関心と課題意識を高め，意欲的に追究し，とらえようとしている。
４ 拡大する世界の農産物流通	・主題図や模式図，グラフや写真を用いて，世界の農産物流通の特徴について小麦，米，野菜，果実を例にアフリカや中南米で野菜の輸出量が増えていることを理解している。	・端境期を利用としたアフリカや中南米で野菜の輸出量の増加を理解しつつ，課題が見られる南太平洋の特徴や地域の結びつきなどに着目し，日本向けのカボチャ生産の実態（要因）やその方向性について多面的・多角的に考察している。 ・既存の知識を活用し和牛肉の成立条件やその生産性，農業形態を理解しつつ，主題図や模式図，グラフや写真を用いて，和牛肉の取り巻く環境の特徴やその関連性等に着目し，課題の要因やその解決の方向性について多面的・多角的に考察している。	・世界の農産物流通の特徴について小麦，米，畜産物，野菜を例にしながら関心と課題意識を高め，意欲的に追究し，とらえようとしている。 ・拡大する世界の農産物流通について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる地理的事象の因果関係や諸課題を主体的に探求しようとしている。

Ⅵ：生徒による学びに向かう姿勢の自己評価

観点別評価の観点３（主体的に取り組む態度）の（１）の内容をグーグルフォームで作成し、学期末ごとに各自タブレットで入力させる。

Ⅶ：主体的に学習に取り組む姿勢を評価（学習プロセスの振り返りシートの利用）

「指導」と「評価」の一体化を実践するにあたり、学習プロセスの振り返りシート（OPP：One Page Portfolio）を作成し、毎授業ごとに記述させた。

学習プロセスの振り返りシート

第　２－２　章　　農林水産業　　HR　　番　氏名（　　）

（１）小単元の目標

・農林水産業などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や農林水産業に関する問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解する。

・農林水産業などに関わる諸事象について，場所の特徴や自然および社会条件とのかかわりなどに着目して，「技術革新による農林水産業の地域生産や流通，消費の変容」などの主題を設定し，「世界各地で行われている農林水産業は，どのような条件に影響を受けて成立しているのだろうか。また，持続可能な農林水産業の推進にはどのような取り組みが必要だろうか」などを多面的多角的に考察し，表現する。

・農林水産業について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

（２）小単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・農林水産業の立地とその形態について地域性との関わりから把握するとともに，アグリビジネスの活動が国境を超えて産地と消費地とを結びつけていることを理解している。	・農林水産業の立地とその形態，アグリビジネスの活動を通した国境を超えた産地と消費地との結びつきについて多面的・多角的に考察し，表現している。	・農林水産業の立地とその形態，アグリビジネスの活動を通した国境を超えた産地と消費地との結びつきについて関心と課題意識を高め，意欲的に追究し，とらえようとしている。

学習前（単元を貫く問いに対する考え）世界各地で行われている農林水産業は，どのような条件に影響を受けて成立しているのだろうか。また，持続可能な地域開発の推進にはどのような取り組みが必要だろうか。

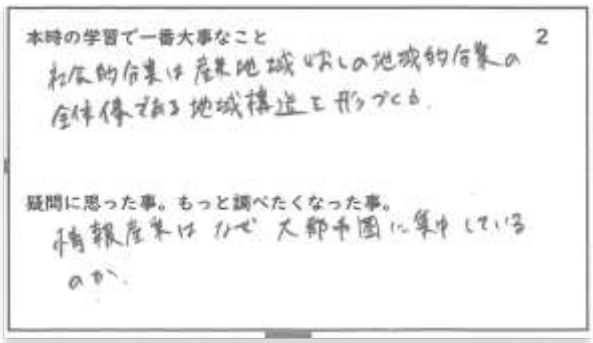
本時の学習で一番大事なこと　1

疑問に思った事。もっと調べたくなった事。

本時の学習で一番大事なこと　2

疑問に思った事。もっと調べたくなった事。

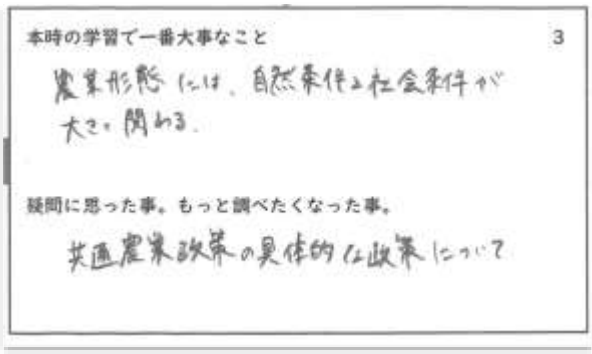
○生徒回答例（農林水産業）


本時の学習で一番大事なこと　2

社会的分業は産業地域や人の地域的分業の全体像である地域構造を形づくる。

疑問に思った事。もっと調べたくなった事。

情報産業はなぜ大都市圏に集中しているのか。


本時の学習で一番大事なこと　3

農業形態には、自然条件と社会条件が大きく関わる。

疑問に思った事。もっと調べたくなった事。

共通農業政策の具体的な政策について